



西の魔女が死んだ

著 梨木香歩
新潮社

祖母の愛
少女の自立
日常生活

紹介文

不登校になった中学生の少女と優しいおばあちゃんのお話です。少女はおばあちゃんの優しさや温かさをきっかけに笑顔を取り戻していきます。しかし、そのおばあちゃんは実は……魔女だったのです。少女は西の魔女こと、おばあちゃんのもとでいろいろな体験をして成長していきます。自分とつい重ねてしまうような、考えさせられるような、そんな心温まる感動物語です。ぜひ手にとって涙を流してみてください。

倉敷市立船穂中学校2年

大切な人が死んでもそれを乗り越えていこうとする主人公に感動しました。

県立岡山大安寺中等教育学校3年

人生にはいろいろあって疲れてしまうときがあるけど、この本を読むと前向きになれます。

岡山市立灘崎中学校3年

～おじいちゃん、おばあちゃん大活躍！～



『ダーウィンと出会った夏』
作 ジャクリン・ケリー
訳 斎藤倫子
ほるぷ出版



『ラストラン』
著 角野栄子
角川書店



『シカゴよりこわい町』
著 リチャード・ベック
訳 斎藤倫子
東京創元社

『ダーウィンと出会った夏』は、おじいちゃんの影響で科学のおもしろさに気づいていく少女キャルパーニアの成長物語。『ラストラン』は、74歳のおばあちゃんが、二人の幽霊と楽しいバイクツーリングをするファンタジー作品です。『魔女の宅急便』を書いた作家さんです。『シカゴよりこわい町』は、正義のためなら手段を選ばないという肝っ玉おばあちゃんが、町に起こる様々な事件を解決していきます。短編なので読みやすいですよ。



虹色ほたる 永遠の夏休み

著 川口 雅幸
アルファポリス

奇跡

感動のタイムスリップ

ファンタジー

紹介文

細かい描写で、その場面の様子がとてもよく伝わってきました。物語は現実では起こらないような話で、主人公が昔へとタイムスリップしてしまい、そこで出会った人たちと過ごすという、「もう一つの夏休み」を描いたものです。読んでいて、とても温かい気持ちになれると思うので、ぜひ読んでみてほしいです。

倉敷市立真備中学校3年

突然交通事故で亡くなったお父さんとの思い出の地へ出かけた主人公のユウタ。しかし突然の夕立に見舞われ、足を滑らせて気を失ってしまいます。気がつくと、30年前にタイムスリップしていたのです。その30年前のある村で、ユウタはかけがえのない親友と妹のような少女に出会い、楽しい夏休みを過ごします。はたしてユウタは現実の世界に戻れるのでしょうか？最後までとてもわくわくしながら読むことができます。そして感動のラストシーンが待っていますよ。

作成委員

～タイムトラベルしてみませんか？～



『トムは真夜中の庭で』
作 フィリパ・ヒアス
訳 高杉一郎
岩波書店



『ぼくと未来屋の夏』
作 はやみねかおる
講談社



『時間をまきもどせ!』
作 ナンシー・エチメンディ
訳 吉上恭太
徳間書店

『トムは真夜中の庭で』は、日常に退屈しきっていた主人公トムが、真夜中にだけたどり着くことのできる不思議な庭で、少女ハティと過ごす日々を描いています。『ぼくと未来屋の夏』は、お金を払うと未来の出来事をおしえてくれるという「未来屋」の青年と主人公が、町に語り継がれる噂を解明していく物語。『時間をまきもどせ!』は、時間を巻き戻すことができるという機械を手に入れた主人公ギブが、交通事故にあった妹を助けようとする物語です。



チャーシューの月

作 村中 李衣
絵 佐藤真紀子
小峰書店

ラーメン
やさしさ
深く厚い絆

紹介文

この本は、児童養護施設で繰らす複雑な気持ちを持った子供たちの生活を描いています。少し変わった個性の明希という女の子や、明希と関わることで成長していく美香、そしてそれを見守る人たちの姿を見ていると、人はたくさんの人に支えられて生きているということを実感させられます。また、題名ですが、実はとても深い意味があります。それを考えながら読んでいくのもおもしろいですよ。

県立岡山大安寺中等教育学校1年

この本に出てくる子供たちは、どの子もみんな自分をあきらめないという生命力の強さとプライドを持っています。この本を読めば、幸福の量は恐ろしいほど平等だと感じることができると思います。

朝日塾中等教育学校3年

～前向きにたくましく生きる子供たち～



『おれのおばさん』
著 佐川光晴
集英社



『いつか見た青い空』（コミック）
著 りさり
新書館



『世界地図の下書き』
著 朝井リョウ
集英社

『おれのおばさん』は、突然、児童養護施設を経営するおばさんのもとで生活をするようになった陽介が様々な出来事を通してたくましく成長していきます。『いつか見た青い空』は、作者自身が体験した、児童養護施設での生活を元にして描かれています。子どもたちの心や、大人になってから当時を振り返る作者の考察が丁寧に描かれていて、とても感動します。『世界地図の下書き』は、様々な理由で児童養護施設に集まった五人の子供たちが、助け合いながらともに成長していく物語です。



赤毛のアン

作 ルーシー・モード・モンゴメリ

訳 村岡花子

講談社

ユーモア

結婚

愛情に包まれる

紹介文

主人公アンの笑いや涙あふれる生活を描いている作品です。アンの悲しくつらい過去が描かれたかと思うと、おっちょこちょいな失敗が描かれるという、楽しさと感動の入り交じったとてもよい作品です。またアンはとても前向きで、とても明るい性格なので、きっと読めば元気をたくさんもらえると思います。

倉敷市倉敷南中学校2年

アンの巻き起こした事件、そしてなによりアンの想像力には驚きました。少し長めのお話ですが、ぜひ読んでみてください。

倉敷市立玉島北中学校1年

孤児院で暮らしていたアン・シャーリーは、グリーン・ゲイプルスに住むマッシュウ、マリアの兄妹に引き取られます。このお話はアンが二人の愛情に包まれ、優しく美しい女性に成長していく物語です。

作成委員

～名作の世界へようこそ！～



『若草物語』

作 ルイザ・メイ・オルコット

訳 中山知子

講談社



『大草原の小さな家』

作 ローラ・インガルス・ワイルダー

訳 こだまともこ・渡辺南都子

講談社



『青い鳥』

作 モーリス・メーテルリンク

訳 江國香織

画 高野文子

講談社

ここに挙げた作品は、昔から名作としてたくさんの方が読んでいます。シリーズがたくさんある作品もありますから、続けて読んでみてください。『若草物語』は、アメリカの南北戦争時代に父が出征し、父の無事と帰還を祈りながら暮らす四人姉妹の物語。『大草原の小さな家』は、西部開拓時代のアメリカで、西部の自然と格闘しながら生活の基盤を作っていくたくましいインガルス一家の物語です。『青い鳥』は、クリスマス・イヴの夜に貧しいいきこりの家の兄妹、チルチルとミチルが、ふしぎな妖精のおばあさんに「青い鳥を探しにいってくれ。」とたのまれ、冒険の旅に出かけます。



ウィッシュ 願いをかなえよう!

作 フェリーチェ・アリーナ

訳 横山和江

講談社

挑戦

ダウン症の少年と願い事

ハラハラする旅

紹介文

主人公のセブはダウン症の少年だ。セブはお母さんを助けるために冒険をする。セブのお母さんは、骨髄移植が必要なガンにかかっているのだ。しかも、骨髄移植をするための白血球の型が一致する確率はきわめて低い。セブはお母さんが元気になるようにある旅に出る。それは、見ていてハラハラドキドキする旅だ。この本は、願いがかなうと信じ貴くことの大切さが伝わってくる本です。

倉敷市立玉島北中学校3年

ダウン症という病気を抱える少年セブが、母親に病気を治して元気になってもらうために、願いをかける物語です。セブの母親に対する愛情が伝わってきます。また、健気に信じ、願いをかけ続けるセブの様子は、読んでいて心にしみみます。ぜひ読んでみてください。

県立岡山大安寺中等教育学校2年

～誰もが困難に立ち向かっている！～



『ハートビートに耳をかたむけて』

著 ロレッタ・エルスワース

訳 三辺律子

小学館



『ぼく、カギをのんじゃった!』

作 ジャック・ギャントス

訳 前沢明枝

徳間書店



『ルール!』

作 シンシア・ロード

訳 おひかゆうこ

主婦の友社

『ハートビートに耳をかたむけて』は、未成年の心臓移植の問題を扱った作品。心臓移植を受けたアメリカは、しだいに自分のものではない記憶を持つようになります。『ぼく、カギをのんじゃった!』は、いつも騒ぎをおこしてばかりで、まわりから「問題児」だと思われるジョーイが支援センターに通うことで変わっていきます。シリーズ本です。また、『ルール!』は、自閉症の弟をもつ女の子のお話です。様々な立場の人たちの気持ちがいいたいほど伝わってきます。



東京バンドワゴン

著 小路幸也
集英社

友情

大家族

次々と事件が！

紹介文

人間関係が複雑なので、関係図を見るだけでもとてもわくわくします。どのお話も家族の温かさや愛情、友情について教えてくれます。「ほっ」としたい人は是非読んでみてください。

倉敷市立玉島北中学校3年

明治時代創業の、古書店兼カフェを舞台にした四世代の九人家族とその家族を取り巻く人たちの日常を描いた作品。店の名前は「東京バンドワゴン」という、ちょっと個性的な名前。そこに住む家族の一人ひとりとても個性的で、次々と事件を巻き起こしますが、いつの間にか家族で協力して解決してしまうという、とても心温まる作品です。続編もたくさん出ています。全部読破してはいかがでしょうか。

作成委員

～家族＋謎解き～



『無花果の実のなるころに』
著 西條奈加
東京創元社



『切れない糸』
著 坂本司
東京創元社



『窓の外は向日葵の畑』
著 樋口有介
文藝春秋

『無花果の実のなるころに』は、元芸者の粋なおばあちゃんが、孫である少年とともに身のまわりで起こる事件の謎解きをしていきます。『いつもが消えた日』という続編も出ています。『切れない糸』は、クリーニング店を営む家族のもとに届くクリーニングの品物をヒントにして、次々に起こる事件を解決していきます。同じ作者の『和菓子のアン』と一緒にどうぞ。二冊読むとまた違った楽しみが。『窓の外は向日葵の畑』東京下町の松華学園、江戸文化研究会の部員が次々と失踪するという謎に、主人公と、元警官で作家志望の父が立ち向かいます。どれも謎解きやミステリーの要素があり、わくわくしながら読み進めることができます。



幸福な食卓

著 瀬尾まいこ
講談社

家族崩壊
人生の食卓
心あたたまる物語

紹介文

何気ない生活が幸せだと気づかされる物語。突然「父を辞める」と宣言した父。家出中にもかかわらず家族に料理を届ける。神童と呼ばれたが、大学へ進まず農業をする兄。そんな家族の中で必死に、前向きに生きようとする佐和子。一緒に受験勉強を頑張ったボーイフレンドの大浦君だが……。受験生には是非読んでほしい一冊。

倉敷市立南中学校3年

最初のお父さんの一言で物語の世界に引き込まれます。普段は別々の生活をしている家族ですが、実は深いところではつながっていて、人はどこかでいろいろな人に支えられながら生きているのだということを改めて感じさせてくれる作品です。瀬尾さんの文体は、たとえ語られる内容が、つらく悲しいものでも、どこか優しく心温まるものがたくさんあります。

作成委員

～心奪われる家族の言葉～



『卵の緒』
著 瀬尾まいこ
新潮文庫

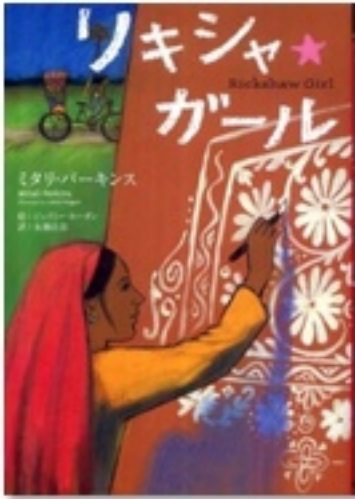


『小野寺の弟・小野寺の姉』
著 西田征史
泰文堂



『ナモナキラクエン』
著 小路幸也
角川書店

『卵の緒』は、『幸福な食卓』と同じ、瀬尾まいこさんの作品。「僕は捨て子だ」という息子の言葉から始まる、親子の絆を考えさせられる物語。『小野寺の弟・小野寺の姉』は、「姉に殺意を抱いたことが、これまでに三度ある」と始まりますが、内容は二人だけで暮らしている姉弟の、さえないけれど、心温まる日常が描かれています。お互いを思いやる気持ちに感動します。『ナモナキラクエン』は、父親が「楽園の話を、聞いてくれないか」と言いかけて、突然亡くなってしまいます。その言葉の謎を解くため、四人の異母兄弟が旅をする物語です。



リキシャ★ガール

作 ミタリ・パーキンス

訳 永瀬比奈

鈴木出版

親孝行
働く父親
熱い思い

紹介文

仕事のつらさ、家族のために働きたいという思いなどがとてもよく分かる本です。

真庭市立落合中学校 1年

主人公のナイマは、バングラデシュに住む、絵の上手な10歳の女の子。ナイマの家族はお父さんとお母さん、そして妹の4人です。お父さんはリキシャ（人力車）で荷物や人を運ぶ仕事をしています。しかし、運賃がたくさんもらえる人を運ぶためには、きれいなリキシャでなければなりません。そのため、新しいリキシャを買ったばかりのお父さんは、休みもなく働いています。ところが、ナイマの村では男が外で働き、女は家事という生活が当たり前になっているので、ナイマは疲れて帰ってくるお父さんを見るたびに歯がゆい思いをします。しかし、何とかお父さんの仕事を手伝おうと、リキシャに乗る練習をするのですが……。少女が自分で自分の運命を切り開こうと頑張る姿に感動する作品です。

作成委員

～世界中の子供たちの現実を知る～



『ビリー・ジョーの大地』
作 カレン・ハス
訳 伊藤比呂美
理論社



『大地のランナー 自由へのマラソン』
作 ジェイムズ・リオーダ
訳 原田勝
鈴木出版



『雨あがりのメデジン』
作 アルフレッド・ゴメス＝セルダ
訳 宇野和美
鈴木出版

『ビリー・ジョーの大地』には、全てを覆い尽くし、台無しにしてしまう土埃と闘いながら生きる人間の苦悩が克明に描かれています。『大地のランナー』は、まだ、アパルトヘイトという人種差別政策があった南アフリカ共和国で、人種差別と戦うために走り続けたマラソンランナーのお話。『雨上がりのメデジン』は学校には通わず、親に言われて盗みをする子供の物語です。今の私たちに何ができるのかということを考えるきっかけにしてください。



ハーフ

著 草野たき
ポプラ社刊

お母さんが犬？
探す
切ない物語

紹介文

ぼくの母親の名前は、ヨウコという。
ぼくは小さいときから、ヨウコが母親だと教えられてきた。
ヨウコは、茶色い毛並みのきれいな、犬だった。

（本文より）

もちろん、真治には本当のお母さんがいるはずですが、お父さんはヨウコと名づけた犬を溺愛しています。母親が犬なんてあり得ないと思いつつ、真治は父親と自分と犬の三人（？）の生活を楽しんでもいるのですが、あるとき、ヨウコが行方不明に。ヨウコを探しながら、真治は次第に本当の母親のことを知りたいと思うようになります。お父さんはなぜ、そんなに犬を可愛がっているのでしょうか？真治の本当のお母さんは？親子の絆、動物への愛情について考えさせられる一冊です。

作成委員

～家族と動物の心温まる物語～



『有頂天家族』
著 森見登美彦
幻冬舎



『ソウルメイト』
著 馳星周
集英社



『マーリー
世界一おバカな犬が教えてくれたこと』
著 ジョン・グローガン
訳 古草秀子
早川書房

『有頂天家族』京都の中心を駆ける狸たちの素敵家族物語。テレビアニメ化されている作品です。『ソウルメイト』は、様々な犬と人間との関係を描く、心温まる短編集です。『マーリー世界一おバカな犬が教えてくれたこと』は、子育ての練習にと犬を飼い始めた夫婦の奮闘物語。人生の節目で、犬が大切なことを教えてくれます。この作品も映画化されています。